

# 世界チャンピオンへの道

元プロボクサー 田口 良一様

小学生の時の身長は155 cmと低く、スポーツは野球とバスケットをしていました。運動神経は良い方だと思います。世界チャンピオンになるにあたり、野球の俊敏性やバスケットの間合いや距離感がボクシングに活かされていると思います。性格は負けず嫌いです。ボクシングを始めたきっかけは3つあります。まず、父が格闘技を見るのが好きで、よく一緒にテレビ観戦をしていました。また、小学校の時にいじめを受けていて、誰にも相談できず辛い経験をしました。やり返すことは考えませんでした。ボクシングで自信をつけたいと思いました。最後に漫画「はじめの一步」との出会いです。主人公がいじめられ、ボクシングと出会って成長していくというストーリーで、主人公の一步と自分が重なりボクシングを始めました。

中学3年生の秋、ボクシング体験がきっかけで2週間に1回、ボクシング教室に通うことになりました。それと並行し、高校1年の夏から、私が憧れていた畑山 隆則さんや、元世界チャンピオンの新井田 豊さんが所属していたジムに通うようになりましたが、真面目に練習することがなく、いつの間にかフェードアウトしてしまいました。その後は帰宅部です。しかし、高校3年の進路を決める段階で、本格的にボクシングに取り組むことを決意しました。

渡辺ボクシングジムに所属し、プロデビュー戦ではKO勝ちすることができました。その後、新人王戦に出場が決まりました。新人王戦というのは9か月かけ、東西のトーナメントで最後は東と西のチャンピオンが対戦し、全日本新人王が決定します。全日本新人王は世界チャンピオンになるための登竜門と言われています。

私はデビューから3戦は一番下の階級のミニマム級で47.61 kg以下のクラスでした。普段でも49 kgないぐらいでしたので、減量が一番楽なボクサーと言われるぐらい、減量は必要ありませんでした。しかし、ミニマム級という言葉が気に入らなかったため、1階級上のライトフライ級でエントリーしました。結果、連勝を重ね優勝しました。優勝の勝因は、一番の得意技の左ブローをうまく使ったからだと思いました。上下上手く散らすことができポイントを取り新人王になりました。

新人王になり日本ランキング12位に入りましたが、これからという時に椎間板ヘルニアが発症しました。痺れと痛みには耐えながら続けていましたが、とても試合に出られる状態ではありませんでした。しかし、試合をしないとランキング外になってしまうため、ジムの会長にも秘密にして試合を続けました。試合はブロック注射の痛み止めを打って出場、自分のボクシングスタイルは、中に入って攻めるというインファイターですが、椎間板ヘルニアで痛みがあったので、アウトボクシングという距離を保ちながら攻撃する機会をうかがうスタイルでポイントを取って何とか勝つことが出来ました。翌日、受診しましたが、自分の足の指を動かすことができなくなるという深刻な状態で、すぐ手術することになりました。1年のブランクがありましたが、復帰後の試合で勝ち、ランキングをキープしました。

ここでチャンスが訪れます。日本ランキング1位から対戦オファーが届いたのです。相手の試合映像を観ても自分が悪く感じましたが、勝ち上がっていくために受けることにしました。絶対の自信を持って試合に臨みましたが、初の8回戦ということと、相手は経験があったことがあり初の敗戦となりました。

そこで引退の気持ちが芽生えました。ボクシングの師匠が辞めること、同級生は大学を卒業し安定した職に就いていたこと、母親がボクシングに反対であったことなどが引退の気持ちの誘因となりました。辞める気持ちが固まり、引退後の準備をしていた時に、ある言葉と出会います。「10年続けたら何かが変わる」です。私はボクシングを5年しかやっていませんでした。あと5年やってみてダメだったら引退しようと思いました。「やらない後悔よりやる後悔」を選んだのです。

最強後楽園A級トーナメントという、日本ランキングの上位者が出る大会で優勝すると日本チャンピオンに挑戦する権利が与えられます。4名出場し、優勝することができ日本チャンピオンに挑戦しました。チャンピオンは私が常にライバル意識をしていた選手でした。結果引き分けになりました。引き分けというのは、日本チャンピオンのドロー防衛ということで私の負けも同然です。その結果に私は戦意喪失し、練習に行ったり行かなかったりの状態でした。

その時にスパーリングのオファーが届きました。その相手は史上初のアマチュア7冠を獲得した井上尚弥選手です。私は日本1位という自負がありましたが、実際のスパーリングでは2回ダウンを奪われボコボコにされました。こんな負け方をしたことがなかったため挫折を味わいましたが、10年を目指し頑張ることができました。

翌年に日本タイトル決定戦に挑み、日本チャンピオンになりました。初防衛戦の相手に井上尚也選手を指名しました。今までにないほど練習をし、自信を持って臨みましたが、初防衛戦は失敗に終わりました。しかし、会長にその試合後リング上で、「世界戦は必ずやるから」と言って頂き、負けたけれどもいい勝負をしたんだなと思いました。

負けて世界ランキングから外れましたが、その後、世界ランカーの選手に勝ち、世界戦が決まりました。2ヶ月で160ぐらいのかつてないスパーリングをこなし、判定ではありませんでしたが世界チャンピオンになることができました。ここまで10年です。何より世界チャンピオンになった会場が大田区総合体育館です。私がボクシングを始めるきっかけになった原点で感慨深く感じました。ボクシングをして良かったと思うのは、いろいろな方とのご縁ができたことです。ボクシングとは生涯付き合っていきたいと思っています。

